沼田市立白沢中学校　校長通信

白中雑口把覧（ザックバラン）Ｎｏ．３７

～　白沢中の”今”を、ご覧ください　～

発行　令和２年１２月２２日

校長の白沢学その３１「古語父山の鬼女おのぶ」

前々号で紹介しましたが、白沢には多くの砦（とりで）がありました。それらの多くは、「里人が戦（いくさ）に巻き込まれないために、逃げ込む場所だったのではないか」との見解があります。それを裏付けるような昔話が、『続かたりつぐ　白沢のむかしばなし』の中にありました。

むかしむかし、戦国時代のお話です。立岩の『清岸院（せいがんいん）』というお寺に、おのぶという力持ちの娘がいました。

ある日、おのぶが庭で洗濯をしていると、怪しい男が庭へ忍び込んできました。ーーははぁ、こいつが近頃このあたりを荒しまわっている盗人だなぁ。ちょっと、懲（こ）らしめてやるべえーーおのぶは庭の隅に隠れている男に向かって言いました。「おい！そこの人。洗濯物を絞（しぼ）るのを手伝っておくれ。」男は見つかってしまったので、仕方なく手伝うことにしました。二人は洗濯物の両端をそれぞれ持って、絞り始めました。おのぶの力に、男はだんだん絞り負けてきて苦しそうです。その時、「えいっ！」と、おのぶは、男を洗濯物ごと、そばにあった石にたたきつけて、やっつけてしまいました。

そのおのぶが、おばあさんになってからのことです。沼田の蔵内城（くらうちじょう）をめぐって、真田昌幸（さなだまさゆき）と北条氏政（ほうじょうううじまさ）が争っていました。蔵内城を乗っ取られた北条勢は、近くの神社やお寺を焼き払ったり、農民から食べ物を奪ったりと、悪さばかりしていました。ある時その北条の一団が、古語父山へもやってきました。しかし村の男たちは城の守りにかり出され、村には年寄りや女、子どもしかいません。「どうすべぇ。「殺されちまう。」みんなは、恐ろしくてしかたありませんでした。

その時、おのぶがみんなに言いました。「わしが二十人や三十人は追っ払うで、みんな手伝ってくれ。」おのぶは、みんなに薪（まき）を鉈（なた）で削って、尖（とが）らせるように言いました。そして合図と共に、その薪を投げるように言い、陰に隠れさせました。

いよいよ北条勢が細い山道を駆（か）け上ってきます。「うおーっ！」おのぶは叫びながら北条勢の前に立ちふさがり、その大力で次から次へと薪を投げつけました。”カキン”” グサッ”” ズブッ”薪は駆け上ってくる北条の兵の、顔や腹、足と次々に当たったり突き刺さったりしました。隠れていた村人も、おのぶの合図と共に一斉に薪を投げつけました。その時のおのぶの顔の恐ろしかった」こと。白髪は風に逆立ち、目はつり上がって、うなり声をあげる口は耳まで裂けているように見えました。「おっ、おっ、鬼だあ！鬼が出たあ。」後を登ってくる北条の兵たちはビックリして、山を転げ落ちるように逃げていきました。

それからというもの、古語父山には鬼女が居るといって、二度と襲ってくることはありませんでした。そして村人たちも、おのぶのその勇気と大力に感謝して、今でもこの話を語り継いでいます。

←白沢川場線の突き当たりを、真っ直ぐに登っていくと清岸院があります。

←↑清岸院

清岸院から下古語父方面を見る→

【生徒会本部役員選挙】

12 月 8 日に、生徒会本部役員選挙の立会演説会と投開票が行われました。以下の 7 名が、新本部役員として選出されました。任命式を経て、３学期から始動となります。現役員に負けない活躍を期待しています。

生徒会長：阿部帆乃果
本部役員：新井虎太郎
：上岡　拓未
：萩原　啓人
：上岡　咲良
：星野花里奈
：中村　来未